

<研究ノート>

ニュージーランド英語におけるマオリ語総集編

横瀬 弘幸*

Aspects of the Maori Language Highlights in N Z English

YOKOSE Hiroyuki*

抄 録

ニュージーランドにおけるマオリ語の存在は確実に生活の中にある。授業に学校でも取り入れられているところもある。学校では言葉に限らず歴史にも触れ、マオリに対する好意的姿勢は行きとどいている。国としてさすがである。言葉の使用範囲は5パーセントといわれているが、紀要IからVIIまでマオリ語が生活の中にどのように受け入れられ、借用されているか文法的見地から検証してきた。今回は特に発音と、また日本語・マオリ語に関して今までの総括を試みる。

Abstract

In daily conversation in New Zealand, the Maori language comprises only five percent. In fact, however they use and speak lots of Maori words, and phrases and expressions, that came from the Maori language.

This paper examines aspects of Maori language highlights in New Zealand English. The pronunciation of the sounds of this language will be given particular consideration.

キーワード：発音に関する一般的考察、日本語・マオリ語について

1. 発音に関する一般的考察

言語の正確な発音記号を示すのは困難である。しかし、人が発声する声は出来、音声記録はある。だが、話されているマオリ語の記録はないが、New Zealand で話されている英語に最も近い発音をしている。母音は5つあり、それぞれは短いか長いかのどちらかで

ある。長い母音は一語で同じ場所に置く。短いものは二つある。Let's learn Maori (Bruce Biggs) の本には全て二重母音として示されている。

Manu の a は短く発音する

Maanu の aa は長く発音する

* 経営情報学部経営情報学科、Tsukuba Gakuin University

Pipi の I は短く発音する
Piipii の ii は長く発音する

Manuのaはnutのuのように短く発音する
MaanuのaaはChicagoのaのように長く発音する

pipiのiはpitのIのように短く発音する
piipiiのiiはpeepのeeのように長く発音する
pekeのeはpeepのeのように短く発音する
peekeのeeはpairのaiのように長く発音する

二重母音といわれる異なった母音がある。マオリ語の二重母音ははっきりと第二音節の性質を持ち、殆んどが英語とマッチしていない。英語の hay のように hei は ei の発音である。

h ae は high のように ae である
h ai は sighing のように ai である
k ao は how のように ao である
k au のauはhouseのouのようにauである
k ou は low の ow のように ou である
k ia は beer のように韻をふみ ia である
p ua は sewer のように韻をふみ ua である

それぞれには次のようなルールに従って、ストレスがおかれる。その決まりは与えられた順に適應されなければならない。先ず、ストレスはその語の終わりから四番目に置かれ、それ以上は無い。四番目以上含まれている語においては四番目を考える。ルールは下記の通りである。

- A. 二重母音が一つであれば最初にストレスをおく。例えば、
maata, papaa, kaapene, mataa, kaunaatua, paakehaa
- B. 二重母音が無い場合、最初の母音は語の終わりから四つの母音すなわち最初の母音にストレスをおく。この様な語はほぼ固有名詞である。例えば、

karauria,tamaiti,waiata, hauturu,tauranga

マオリ語を話す人々は、簡単なポーズを取り自分たちの言語も取り入れて話す。そのようなポーズは常に文法的フレーズのおわりにおきる。一つの途切れと他との間は抑揚を示すものと言われている。ゆっくりとしたスピーチを聞くと、抑揚は一つの長いフレーズであり、また早いスピーチに於いてはいくつかのフレーズは一つのイントネーションとして話される。それぞれのイントネーションはフレーズの中で最も突起したものと聞こえる。この抑揚の上がり下がりには句の強調と言われる。次の例はフレーズにストレスが置かれているのを大文字で表したものである。

Ko te ranga Tira,o teenei Marae
Ko te maRae, o teenei Rangatira

ニュージーランド英語の発音は初期移民の言語によるが、19世紀末から特徴を示し、19世紀前期、あるいは中期ロンドンを中心とする南部の言葉を基調に発展したものであるとニュージーランド英語(沢田敬也氏)の中で示している。

さらに、ニュージーランド人は早口であり口を開かず、あまり唇も動かさないために一般的に母音は容認標準音より閉母音化の傾向があると言う。

マオリ語は英国系移民と平等の権利を持ち、共に生活している民族の言葉である。ニュージーランド英語に与えた影響は割合にしてはそんなには無いが、ニュージーランドに与えた影響は大きい。マオリ語は全ての音節に強勢が置かれている15文字から成り、日本語同様開音節で終わるポリネシア系の言語である。マオリ語の音構成は、母音5、子音10で母音は日本語のア(a)、イ(i)、ウ(u)、エ(e)、オ(o)と同じである。子音は、h,k,m,n,p,r,t,w,ng,whで最後の2つは二重字で、ngは

singer の [ng] を表し、wh は whale の [hw] あるいは [ɥ] と発音する。それ以外は全てそのままの記号で表記される。

新聞やテレビなどでも出会うことがある語彙を列挙してみる。これらはニュージーランドの英語になっている。

Kiaora (乾杯) pakeha (白人) haka (出陣を表すマオリダンス) marae (集会場) honngi (マオリ人の鼻と鼻をすり合わせる挨拶) tangi (葬儀) tiki (マオリのお守り) kumara (さつまいも) nikau (ニュージーランドの椰子) mokomoko (蜥蜴) mako (鮫) kiwi (キウイ鳥) は国鳥であるが食事の時に起きて 20 時間以上寝ているので lazy bird とも呼ばれている。

マオリ人が最も多く住み、間欠泉で有名な Rotorua 2 月 6 日はワイタンギ (Waitangi Day)、これは 1840 年ワイタンギ条約が締結された記念日である。また Otago 大学の名前もそれぞれマオリ語からである。

マオリ語は綴字発音であるが、2 言語間の音、あるいは音結合がことなるために、借用された語の多くは英語式の発音になる。ここで代表的なマオリ語とその意味を挙げてみる。

A

Ahiahia	evening
Aporo	apple
Arahanga	bridge
Arani	orange
Arapu	alphabet
Ararewa	elevator
Arero	tongue
Ata	morning
Atea	space
Awa	river

H

Haki	flag
Hamarara	umbrella

Hamipeka	hamburger
Hanawiti	sandwich
Hapa	dinner
Hararei	holiday
Hari	take
Hate	shirt
Hei	necklace
Heihei	chicken

I

Ika	fish
Inu	drink
Ipu	glasses
Ipu para	rubbish
Iti	small
Itiiti	few

K

Kahumoe	pyjamas
Kaiako	teacher
Kaihana	cousin
Kaihi ika	fisherman
Kaikauhoe	swimmer
Kaiga	eat

M

Ma	clean
Ma	white
Maha	many
Mahunga	head
Maika	banana
Makawe	hair
Makete	market
Maku	wet
Mama	mother

N

Naihi	knife
Nakahi	snake
Nehi	nurse
Nga ra	days
Nga takaro	sport
Nga wa	the seasons
Ngahere	forest

Ngawari	easy	Umu	oven
Niho	teeth	Uru hua rakau	orchard
O		Urunga	pillow
Oma	run	W	
Onepu	beach	Waea	telephone
Ono	six	Waewae	feet
Ara	alive	Waewae	leg
P		Waha	mouth
Pahi	bus	Wahie	wood
Pahi	handbag	Wahine	woman
Pahi	suitcase	Wai	water
Pai	good	Waiata	sing
R			
Raihi	rice		次にマオリ語のよく使われる会話フレーズ
Raiona	lion		を挙げてみる。
Rakau	tree		
Rakiraki	ducks		1. あなたのお名前は？
Rangi	sky		Kowai tou mate?
Rata	doctor		2. どうかしましたか？
Reta	letters		He aha tou mate ?
Ringa	hand		3. いつかえってきますか？
Rongoa	medicine		A hea koe hoki-a ai ?
Rorohiko	computer		4. あなたは何種族ですか？
T			He aha tou tou hapu
Taiapa	fence		5. あなたは何をしていますか？
Taika	tiger		I te aha koe ?
Taimana	diamond		6. あの人は何をしていますのですか？
Tamahine	daughter		He aha tana mahi-a?
Tama-nui-te-ra	sun		7. ありがとう / どうもありがとう
Tamariki	son		Ka pai/Ka nui to aroha
Tane	man		8. ありがとう、げんきです
Tangi	cry		Ka nui te pai Ka hia ou tau?
Tore	dolls		9. いらしゃい
Tauera	towel		Haere mai
U			10. いらしゃいました
Ua	rain		Here mai
Uau	difficult		11. 元気ですか
Ukui	mop		Kei te pehea koe
Ukui puehu	duster		12. 元気ですよ
Uma	chest		Kei te pai

13. ごきげんよう		男	tane	タネ
	Haere ra	買う	hoka	ホカ
14. ごきげんいかがですか		香り	kakara	カカラ
	Kei te pehea koe	鏡	mira	ミラ
15. すてきです		隠す	kakapia	カカピ
	Ano te pai	菓子	keke	ケケ
16. すばらしい!		カナダ	Kaanata	カーナータ
	Pai rawa atu!	カメラ	kaamera	カーメラ
17. 何か飲み物をください		考える	meinga	メイガ
	Homai etahi inu maku	感冒	whuruu	フルー
18. 何か食べ物をください		キーウイ	kiwi	キウイ
	Homai etahi kai maku	君の	too	トー
19. 私と一緒に来なさい		休止	okioki	オキオキ
	Hoki mai ahau	記録	rekoata	レコアタ
20. 私は行きます		懸念して	maanukanuka	マヌーカヌカ
	Ka haere ahau	子犬	papi	パピ
		材木	tarai	タライ
		十月	oketopa	オケトパ
		そうだね	ne	ネ
		タオル	taaora	ターオラ
		地域	takiwa	タキワ
		力	mana	マナ
		連れてくる	tiki	ツイキ
		テニス	teenihi	テーネヒ
		道路	rori	ロリ
		土曜日	haatarei	ハータレイ
		長靴	putu	プツ
		泣く	hotu	ホツ
		肉や	puutia	プーツイア
		日光	awatea	アワテア
		飲む	horomi-a	ホロミーア
		はい	aana	アーナ
		挟む	haami	ハーミ
		母	koka	コカ
		不安	huuhi	フーヒ
		部屋	ruuma	ルーム
		ほのお	mumura	ムムラ
		学ぶ	ako-na	アコーナ
		水	waimaori	ワイマオリ
		息子	tama	タマ

次にニュージーランドのマオリ語には多くの日本語との類似性が見られる。日本語の祖語と言われる南洋の言葉ハワイ語やマオリ語などがある。ここで類似性のあるマオリ語と日本語について検証する。尚、日本語・マオリ語辞典 山本氏 国際語学社から引用する。

愛する	aroha	アロハ		
朝	ata	アタ		
アジア	Ahia	アーヒア		
あそこ	kora	コラ		
暑い	kakaa	カカアー		
穴	ana	アナ		
アメリカ	Amerike	アメリカ		
あらあらしい	riri	りり		
有難う	kiaora	キアオラ		
息	haa	ハー		
イギリス	Ingarihi	イガリヒ		
イタリア	Itaria	イータリ		
色	kara	カラ		
ウイスキー	wihiki	ウイヒキ		
映画	pikitia	ピキツイア		
遅い	pooturi	ポーツリ		

娘	tamaahine	タマーヒネ
山	maunga	マウガ
夕食	hapa	ハパ
ようこそ	hara mai	ハラマイ
ワイン	waina	ワイナ

初めて白人に接したマオリ族は、白人のことを PAKEHA と呼んだそうである。これはマオリ語ではお化けを意味し、日本語のオバケに似ている。また、ANA は洞窟即ちねぐらをさす。また、AHI は火、IKA は魚を意味する。

日本語・マオリ語辞典 P480 によると、「女」は座って手で子供を抱いている母親の姿をもじにしたものである。日本語で女性を表す言葉に姫（ヒメ）がある。女性を乙女オトメ、メノコ とも言う。つまり、マオリ語の女性を示す「ヒネ」と同源であるとおもわれる。平安時代は関東から北を陸奥と言われ、東北は地の果てを意味する「陸奥」と言われている。マオリ語は、「果」ての意味は MUTUNGA である。三保や三保関は素晴らしい曲がりくねった場所で、MINGO は皺が寄る意味である。感歎を MIHI と言う。

阿波や安房は「水路」「海峡」の意味である。和歌山や四国に勝浦や白浜がある。

マオリ語の WAI「水」が変化して、「AWAI」になったと考えられる。これは、飲料水液、液体、流動する、汁、体液を意味している。

WAI を変化させると、KAWAI「川」の意味になる。和井内は WAI「水」とアイヌ語のナイ「川」から生まれた名前であると考えられる。

中国語で老は白髪の意味で、人々の集まりで長老を探すのは白髪が目印である。日本では「老いーオイ・オヒ」ですが「古人ー古老」とも言われている。マオリ語は KORO「老人」である。また、海はウミと読み日本海はウミと読まず、カイである。古語で海はウは大であり、マオリ語では NUI は大、ミは水である。

海をワタとも言うがこの場合ワは海・水、タは土地の意味である。マオリ語は TAI を海・海岸の意味である。

日本語の晴れはハラヒラからであり、マオリ語は HARI で祭日、祝日を表している。

日本語の箱はハケが変化し、ハは葉から来ている。ハケはハコ・ハは葉、ウスは臼・フネは槽である。マオリ語は PAAKA・PAKA は箱の意味である。

マオリ語の WHANGA は湾の意味であるが、日本語では言うまでも無く岬は先、前、崎、埼、などの字をあててきた。最後に日本語に似ている語をあげてみる。

RU - 地震、RURERURE - 揺れる、KA - 火、KAKAA - 熱い、HIHII - 光線、TIRO - 覗く、AHA - 何、RIRORIRO - ピカピカ、WINIWINI - 身震い、WIRIWIRI - 振動、TUKI - 打つ、KAPAKAPA - 叩く・打つ、TUKUGYIU - 放つ、などがある。

以上日本語に似ている語を示したが、マオリ語と日本語が同じルーツにあるとは断言するのは危険である。

参考文献

- Bruce Biggs Let' learn Maori A guide to the Study of the Maori Language 1969 Auckland Univ.
- Bento,R. The history and development of the Maori Language 1991 Wellington
Government Printer
- Williams, H.W.A. Dictionary of the Maori Language 1971 Wellington
- Ngata, H.W. English Maori Dictionary 1993 Auckland and Reed Books
- Yosinari Sawada. An Introduction to New Zealand English オセアニア出版
- 日本語-マオリ語辞典 山本捷二氏